

令和6年度 大阪府立高槻支援学校 学校教育自己診断アンケート
集計結果とまとめ

1 アンケートの対象と集計数

- ① 対象： 保護者・教職員を対象に実施いたしました。
- ② 項目数・内容： 保護者アンケートについて15項目にて実施しました。
- ③ 提出率： 保護者 79.4%（昨年度：57.1%） 教職員 99.3%（昨年度：90.6%）

2 保護者の回答分析と、前年度との比較

保護者の回答を分析した結果、肯定的な回答80%以上の項目が15項目中10項目（うち90%以上が5項目）となり、本校の教育活動をおおむね肯定的にとらえていただいている。

90%以上の5項目は次のとおり。

【肯定的評価が90%以上の項目】

- この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。（95.9%）
- 学校は、子どもの障がいについてよく理解している。（91.6%）
- 学校は、事故・災害時等において、緊急連絡システム（さくら連絡網）等を通じて情報を迅速に発信している。（96%）
- 教員は、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の意義や内容等について、保護者に説明している。また、それらは本人・保護者のニーズを踏まえて作成されている。（95.6%）
- 学校は、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境整備に努めている。（90.2%）

質問項目、質問数ともに前年度から変更があったため、内容的に比較できる項目は15項目中11項目である。11項目についてはおおよその質問内容が一致するものであり、比較した11項目のうち、大きく差があったものは次のとおり。

【肯定的評価が“今年度>前年度”となっている項目】

- 学校は、子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。（89.5% +2.4%）
- 学校は、防災教育や防犯教育に積極的に取り組んでいる。（81.4% +8.4%）
- 学校は、事故・災害時等において、緊急連絡システム（さくら連絡網）等を通じて情報を迅速に発信している。（95.9% +5.5%）
- 学校は、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境整備に努めている。（90.2% +45.2%）
- 学校は、近隣の小・中学校、高校等との交流について積極的に取り組んでいる。（79.8% +6.3%）

【肯定的評価が“前年度>今年度”となっている項目】

- 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。（86.2% -5.1%）
学部別に見ると、否定的回答（あまりそう思わない、そう思わない）が昨年度に比べて小学部で5.8%、中学部で4.3%、高等部で12.4%増加している。肯定的回答については、全学部で86%となっており、学校を楽しみにしている児童・生徒が多くいる一方で、そうではない児童・生徒が増えているということについて、各学部だけでなく、学校全体として考えていく必要がある。

次の3項目については、「わからない」という回答が20%～40%程度あったもので、以下のよう
に分析した。

- 学校は、教員のOJT環境を充実させるなど、学校全体の専門性の維持、向上を図っている。
(57.2% -35.5% 「わからない」37.7%)
「わからない」という回答の多さは、設問中の語句(OJTなど)が理由としても考えられる。より保護者
が回答しやすい文章にする必要がある。また、前年度は教員の専門性についての設問だったのに対し、今年
度は学校全体の専門性について問う設問であったことから、「わからない」という回答が増えたという一面
もあると考える。
- 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(71.3% -2.1% 「わからない」22.9%)
「わからない」という回答が小学部では33.3%、中学部では24.8%であるのに対し、高等部では5.3%で
した。小学部、中学部における支援や指導が、将来の進路につながるということを引き続き保護者に伝えて
いく必要がある。
- 学校では、ICTを効果的に活用した授業が実践されている。(52.5% -9% 「わからない」39.4%)
どの学部も、「わからない」という回答が35～40%程度と高くなっている。授業参観は年に3回であるが、
必ずしもICTやタブレット端末を活用した授業とは限らない。参観以外の時にもICTやタブレット端末
の効果的な活用を保護者に示していくとともに、設問も映像による視覚支援、タブレット端末教材等わか
りやすい語句を使用していく。

3 保護者と教職員の回答比較

前年度と質問項目が変更になっており、今年度、保護者と教職員で比較分析できる質問項目は11
項目である。そのうち、教職員より保護者の肯定的評価が5ポイント以上高かった項目は2項目あり、
学校での取り組みを、保護者の方々によく理解していただいていると考える。

【肯定的評価が“保護者>教職員”となっている項目】

- 教員は「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の意義や内容等について、保護者に説明している。
また、それらは本人・保護者のニーズを踏まえて作成されている。(95.6% +5.3%)
- 学校は、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境整備に努めている。(90.2% +9.0%)

反対に、保護者に比べて教職員の肯定的評価が5ポイント以上高かった項目は次の5項目であり、
学校運営上、留意が必要であることがわかりました。5項目のうち4項目は、保護者の回答において
「わからない」が20%を超えている項目でした。

【肯定的評価が“保護者<教職員”となっている項目】

- 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(71.4% -15.6%) 一上記分析済み。
- 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(64.3% -15.5%)
前年度の設問は「先生たちは、子どもについて保護者の悩みや相談(いじめ防止なども含む)に適切に
応じてくれる。」であり、保護者からの相談ともとれる設問であった。今年度はより限定的な設問となり、
教職員は対応しているという肯定的な回答が多かった一方で、具体的な取り組みとして保護者への周知は十
分ではなかったと考える。今年度、いじめの相談は児童生徒からも保護者からもない状態ではあるが、
引き続き相談しやすい体制づくりを進めるとともに、保護者への取り組みの周知も行う。
- 学校は、防災教育や防犯教育に積極的に取り組んでいる。(81.5% -6.8%)
昨年度より伸びてきているので、活動を継続し、保護者への啓発を進めていく。
- 学校では、ICTを効果的に活用した授業が実践されている。(52.5% -37.0%) 一上記分析済み。
- 学校は、教員のOJT環境を充実させるなど、学校全体の専門性の維持、向上を図っている。
(57.2% -12.8%) 一上記分析済み。

4 まとめ

学校の教育活動について、保護者からは概ね肯定的にとらえていただいていることがわかった。一方で、肯定的回答がある程度高いものでも、昨年度に比べ否定的回答が増えていた項目に関しては、真摯に受け止め、学校全体で考え、対応していく。また、設問の仕方や文言について適切でなかったと思われる項目については、保護者にとってわかりやすい文言で、より回答しやすい設問を設定する。

5 記述による回答

- 学習指導に関すること
- 学校行事に関すること
- 教員の専門性の向上に関すること
- 施設・設備に関すること
- 通学バスに関わること